

【学校教育目標】「確かな学力 豊かな心 健やかな体」  
知・徳・体のバランスのとれた力を育ぐむ

伊岐佐小学校便り No. 19  
令和 8 年 1 月 30 日発行  
文責 校長 市丸 明彦

キラ・ニコ・ドン・パツ



キラキラ輝く子ども ニコニコ笑顔の子ども ドンドン挑戦する子ども パッと行動する子ども



早いもので、今日は1月の最終登校日で、来週からは2月です。「三寒四温」を繰り返し、少しずつ春へと向かっているように思います。2月もあっという間に過ぎてしまいそうですが、1年間のまとめの時期として、これまでの学習や生活等をしっかりと振り返り、気持ちよく卒業・進級してほしいと思います。

【全校集会の話より一部抜粋】

伊岐佐小学校の校門脇にひっそりと石像がたたずんでいるこの人を見たことがありますか。薪を背負いながら、本を読む二宮尊徳の少年時代(金次郎)の像です。皆さんのお父さんやお母さん、おじいさん、おばあさんも小学生だったころ、きっとこの像を毎朝見ながら登校されたことでしょう。

そもそも、二宮金次郎(尊徳)とは、どんな人だったのでしょうか。二宮金次郎は江戸時代末期に農民の子として生まれ、貧しい少年時代を過ごしました。彼は朝から晩まで真面目に自ら働き、家では勉強させてもらえなかつたので、集めた薪を家に持つて帰る途中に本を読んで一生懸命勉強をしました。金次郎(尊徳)は、大人になって、荒れた農村の復興に努め、独特の農法・農村改善策により、人々の暮らしを豊かにしたのです。この像は、戦前(第二次世界大戦前)に全国の各小学校に建立されました。国が金次郎の勤勉・儉約の精神を教育の象徴としたかったためと思われます。

伊岐佐小学校の二宮金次郎像は、昭和15年(1940年)に小松甚治郎さんから寄贈されたものです。小松さんについて調べましたが情報がなく、おそらく小松さんも少年時代に苦労を重ねながら勉強され、母校への恩返しや金次郎の精神の継承という気持ちから寄贈されたのではないかと思われます。

先日の金持さんの話にもあったように、「何かを成し遂げるためには、コツコツと努力すること」が大切だと思います。

今、皆さんのが努力すること、努力していることは何でしょう。勉強や習い事、お手伝いなど、いろいろあると思いますが、目的をしっかりともって、これからも努力し続けてください。

今月14日(水)に、昨年のデフリンピックの水泳競技で2つの銅メダルを獲得された「金持義和」さんが来校され、子供たちに「目標に向かってコツコツと努力する大切さ」を話されました。

子供たちは熱心に聞き入り、本物のメダルを触ったり首にかけたりして、努力することの大切さを強く感じたことだと思います。子供たちのこれからの成長が楽しみです。

